



目次

はじめに	20
安全事項	20
重要安全情報	20
取り付け方法	21
ディスクブレーキの取り付け方法	21
タイヤサイズ制限	22
一般的なセットアップ解説	22
フォークの用語	22
エアポンプについての解説	23
TALAS システムについての解説	23
TALAS のエアスプリングチューニングとサグ値の設定	23
TALAS のトラベル量調節	24
ダンピング調節ガイドライン	24
リバンド調節	24
高速圧縮調節	25
高速圧縮調節器の特殊「ブースト」機能	25
低速圧縮調節	25
油圧ボトムアウトシステム	25
各走行前点検	26
メンテナンスの間隔	26
メンテナンスのツールと備品	27
シールおよびフォームリング	27
構造上点検	27
アッパーチューブ	27
クラウン	27
ローアーレグ	27
ブッシングのテクノロジーと検査	28
ショールームテスト	28
実地テスト	28
オイルの交換	28
TALAS システムのメンテナンスガイドライン	30
技術ヒント：当社サービスチームからのアドバイス	30
サービスおよび保証についての説明	31
保証規約	31
保証に関する Q & A	32
免責事項	32
連絡先	32
お支払い方法	32
出荷方法	32
チューニング時の注意事項	33
外国語版（英語版以外）	18
日本語	18
フランス語	34
イタリア語	49
オランダ語	64
スペイン語	79
国際サービスセンター	94

*国際サービスセンターは、独自の運営となっています。
サービスならびに保証の応答期間は変更することがあります。

はじめに

この度は、Fox 36をお選びいただき、ありがとうございます。同製品は業界でも最高のダウンヒル・サスペンションフォークを誇ります。Fox Racing Shoxの製品はすべて、業界随一のスタッフにより設計・製造・組み立てが行われています。Fox Racing Shox製品を取り付ける際には、最高の性能を発揮できるようなフォークを正確にセットアップしてください。このマニュアルでは、フォークのセットアップとメンテナンスの方法をステップごとに説明しています。後日、サービスおよび保証をお受けになる際に、お買い上げ時のレシートが必要となりますので、本マニュアルと一緒に保管することをお勧めします。

サービスおよび保証については、31ページをご覧ください。

安全事項

自転車での走行には危険が伴い、死亡あるいは致命的な怪けにつながる可能性があります。常にご自身および他の人々に注意を払い、安全な走行ができるよう十分に心がけてください。

- 自転車およびサスペンションの保守点検を定期的に行います。
- 体を保護する服を身につけ、目を保護するゴーグル、およびヘルメットを着用します。
- ご自身の限界を知り、その範囲内で走行します。
- 以下のIMBA（国際マウンテンバイク協会）のトレールルールを遵守します：1) 開けたトレールのみを走行 2) 道を外れない 3) 自転車を常にコントロールする 4) 他者に道を譲る 5) 動物に対して脅威を与えない 6) 前もって準備・計画しておく

重要安全情報

1. 自転車の乗車前には、必ずブレーキが正しく取り付けられ調整されているかどうか確認します。ブレーキが正しく取り付けられていなかったり、正しく調整されていなかったりすると、乗り手に重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。ブレーキは、Fox 36の使用に合わせて各メーカーが設計したディスクブレーキのみを使用します。Vブレーキは、Fox 36には使用できません。ブレーキケーブルやブレーキ収納部をステムに通さないでください。
2. フォークからオイルが漏れていたり、上下に激しく動いたり、異常なノイズを発する場合は、直ちにFox Racing ShoxまたはFox Racing Shoxの認定サービスセンターに連絡してください。その状態で引き続きフォークを使用すると、コントロールを失い、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。スプリングの音、オイルが流れる音、小さいクリック音などは異常ではありません。
3. Fox Racing Shox 部品だけを使用してください。Fox 36にアフターマーケット部品（非純正部品）を使用すると保証が無効になります。アフターマーケット部品を使用すると、構造上の障害が生じ、その結果、コントロールが喪失し、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすこともあります。
4. ドロップアウト部分でフォークを固定するよう設計されたキャリアに自転車を固定させる場合は、自転車がどちら側にも傾かないよう十分注意する必要があります。ドロップアウト付きの自転車をキャリアに固定した状態で傾けると、フォークに構造上の損傷が生じることがあります。フォークがクイックリリースでしっかり固定され、リアホイールも正しく固定されていることを確認します。自転車がキャリアに固定された状態で傾いたり、キャリアから落ちたりした場合は、認定ディーラー、サービスセンター、またはFox Racing Shoxの検査を受けるまで乗車しないでください。フォークレグやドロップアウトに問題があると、自転車のコントロール喪失につながり、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。
5. Fox 36にはオンロード用のリフレクターは含まれていません。Fox 36は競争用オフロード走行およびレースを目的に設計されています。このフォークを一般道路の走行に使う場合は、米国消費者製品安全委員会（CPSC）の規定に準拠する適切なリフレクターを取り付ける必要があります。
6. Fox 36にはクラウン/ステアラー/アッパーチューブアセンブリがあります。これらの部品は、一回の精密圧入加工によってアセンブリにプレスされます。これらのどの部品の交換にも、新しいアセンブリが一式必要となります。ステアラーやアッパーチューブをクラウンから外したり交換したりすることは、避けてください。また、溝なしのステアラーに溝を付けしないでください。このクラウン/ステアラー/アッパーチューブアセンブリを改造すると、自転車のコントロールロスにつながり、重度あるいは致命的な傷害を引き起こすことがあります。

取り付け方法

1. FOX 36は、資格のある自転車整備士による取り付けが必要です。間違っって取り付けると、コントロールロスを引き、その結果、重度または致命的な障害を引き起こすことがあります。

2. 自転車から、現在取り付けられているフォークを取り外します。フォークからクラウンレースを取り外します。現在取り付けられているフォークのステアラーチューブの長さを測定します。FOX 36 ステアラーにも同じ測定値を使います。ステムメーカーの使用説明書を参照して、ステムを締めるのに必要な長さが残っているかどうかを確認します。ステアラーチューブを切断しなければならない場合は、2回長さを測定し1回で切ります。ステアラーチューブを切る際に、カッティングガイドツールを使うことをお勧めします。

注：ステアラーに切れ目や溝がある場合は、クラウン / ステアラー アセンブリを交換する必要があります。切れ目や溝があると、ステアラーに故障が起こってコントロールを喪失し、その結果、重度または致命的な障害を引き起こすことがあります。

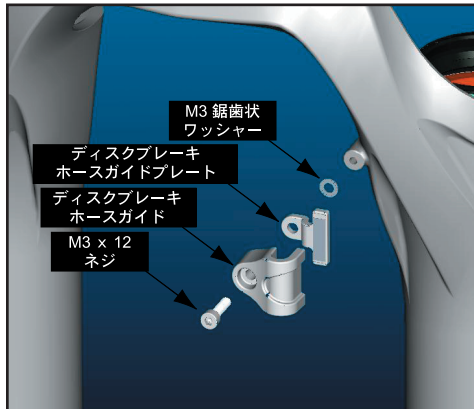
4. 自転車にフォークを取り付けます。ステム、ステムキャップ、M6 ステムキャップボルトを取り付けます。ステムキャップボルトを軽く締めて、フォークが抵抗や緩みのない状態で自由に回転するようにします。

ディスク・ブレーキの取り付け方法

5a. Fox 36は、ディスクブレーキと160～205 mmのサイズのディスクローターのみを使用するように設計されています。Fox 36は、国際XCディスクブレーキボルトパターンを使用します。ディスクブレーキシステムを、ディスクブレーキメーカーの指定値に合わせて取り付け、すべてのファスナーをトルク指定値どおりに締めます。

警告：絶対にローアーレグを改造したり、カンチレバーブレーキを使用したりしないでください。

5b. ディスクブレーキホース（油圧ディスクブレーキの場合）か、ブレーキケーブル収納部（機械ディスクブレーキの場合）をキャリアからローアーレグの内側に通します。Foxディスクブレーキホースガイド部品を下図に示すように組み立てます。ブレーキホースやブレーキケーブル収納部を適切な長さで切り、ディスクブレーキメーカーの指定に従って組み立てます。ブレーキホースガイドの位置を垂直になるように調節し、ディスクブレーキガイドネジを2.5 mmのヘキサキーレンチを使用して、90 N-cmのトルク値で締めます。



アライメントを適切に維持し、ずれを最小にするため、新しいディスクブレーキパッドを取り付けることをおすすめします。

タイヤサイズ制限

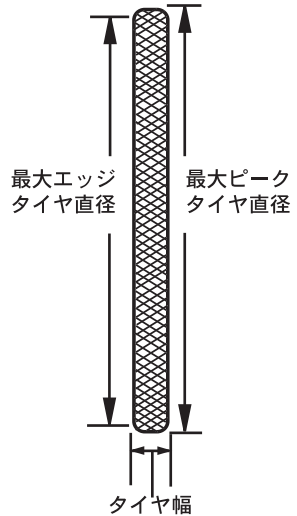
6. Fox 36は幅2.80インチ(71mm)までのタイヤに使用できます。26 x 2.60インチ(660mm x 66mm)より大きなタイヤに対しては、以下の方法でクリアランスチェックを行う必要があります。タイヤをリムに取り付けて空気を入れ、以下の3つの長さを測定します。

最大ピークタイヤ直径 = 694 mm = 27.3 インチ
最大エッジタイヤ直径 = 670 mm = 26.4 インチ
最大タイヤ幅 = 71 mm = 2.80 インチ

上記の最大値を1つでも超えるタイヤは使用しないでください。上記の最大値を超えるタイヤの使用は、重度または致命的な障害を引き起こす原因となるので、お勧めできません。

7. 前輪の取り付け方法：ローアレッジの4つの軸ピンチボルトを5mmのヘキサキーレンチで緩めます。
- 軸を5mmのヘキサキーレンチで左回りに回して緩め、取り外します。
 - 前輪をドロップアウトに取り付け、軸をローアレッジに取り付けます。
 - 5mmのヘキサキーレンチで軸を右回りに回してローアレッジに軽く、215 N-cmのトルク値で締めます。
 - 右側のドロップアウトピンチボルト2つを215 N-cmのトルク値で締めます。
 - 自転車でフォークを2回ほど圧縮し、右側のドロップアウトをフロントさせ、摩擦の低いポイントに安定させます。右側のドロップアウトピンチボルト2つを215 N-cmのトルク値で締めます。

8. ハンドルバーをまっすぐに設定して、ステムボルトをトルクで締める方法：自転車を地面に置いて、またがり、ハンドルバーを前輪に対してまっすぐに設定します。ステムピンチボルトを締め、ステムメーカーのトルク指定値に従ってネジを締めます。ハンドルバーピンチボルトが、ステムメーカーのトルク指定値に従って締められているかを、確認します。これで自転車に乗る準備が整いました。平らな場所ですプレーキが正しく作動するかどうかテストします。トレールでの楽しい走行を！



一般的なセットアップ解説

フォークの用語

トラベル量：フォークの圧縮総量。

サグ：通常の乗車ポジションで自転車に乗った際のフォークの圧縮量。

圧縮ダンピング：これによってフォークの圧縮レートが制御されます。

リバンドダンピング：これによってフォークの伸張レートが制御されます。

プレロード：スプリングにかかる初期の力の量。

スプリングレート：スプリングを1インチ(25.4mm)圧縮するのに必要な力。



FOX の高圧エアポンプを使って、TALAS フォークの圧力を変更します。

1. 左のフォークレグの上からエアトップキャップを外し、チャックを、ポンプのゲージに圧力が表示されるまでタンクバルブに通じてポンプを接続します。フォークに空気圧がない場合は、ゲージに圧力が表示されません。これには約6回転が必要です。この際、締めすぎるとポンプのチャックシールに損傷を及ぼすことがありますので、注意してください。
2. ポンプを数回転させて圧力を上げます。圧力が少しずつ増えていくはずですが、圧力が急激に上昇する場合はポンプがタンクバルブに正しく接続されているかどうかをチェックしてください。
3. 圧力を低くする場合には、黒いブリードバルブを押ししてください。ブリードバルブを半分ぐらいいまで押したまま維持すると、継続的に減圧できます。ブリードバルブを最後まで押すと、徐々に減圧（マイクロ調節）できます。
4. ポンプはチャックを外すことで取り外します。空気が漏れる音はポンプのホースから聞こえ、フォークからは聞こえません。
5. エアトップキャップをした後、乗車します。

注：ポンプの接続時には、ホースに空気が満たされ、低い方のゲージの読みが 10 ~ 20psi を示します。正常な圧力は 45psi と 100psi の間です。絶対に 150psi を超えないようにしてください。

TALAS システムについての説明

Fox 36 は、TALAS (Travel Adjust Linear Air Spring の頭字語) システムを採用しています。TALAS のノブは 1 回のクリックごとに 3 mm トラベル量を変更し、乗車中に 110 mm から 150 mm まで変更することが可能です。TALAS エアスプリングシステムは、トラベル量が調節されると空気圧とスプリングレートを自動変更し、あらゆる設定において自転車に一定の安定した走行性能を与えます。トラベル量はいつも即座に変更可能です。

TALAS のエアスプリングチューニングとサグ値の設定

空気圧はどのトラベル量でも設定できます。TALAS エアスプリングガイドは作業を簡素化するため、150 mm トラベル量設定になっています。これらの空気圧を最初の値に用いて TALAS フォークをセットアップします。

1. ノブを左回りに最後まで回して 150 mm のトラベル量を得ます。
2. 外側のトラベル量調整ノブを回転しないように押さえ、中央の TALAS エアトップキャップ (写真 2) を左回りに回して取り外し、シュレーダーバルブにアクセスできるようにします。
3. FOX Racing Shox 高圧ポンプをシュレーダーバルブに付けます。
4. 必要な圧力までポンプします (右下の TALAS エアスプリングガイドラインの表を参照)。
5. ポンプを外します。エアキャップを付ける前にサグが正しいかどうかチェックします。
6. 次のページの Fox 36 のサグに関する一覧を参照し、空気圧を必要に応じて調節します。



写真 1 TALAS ノブ



写真 2 TALAS エアトップキャップおよびシュレーダーバルブ

Fox 36 エアスプリングガイドライン (150 mm のフォークの場合)	
乗手の体重	空気圧
< 57 kg	45 psi
57 - 61 kg	48 psi
61 - 66 kg	50 psi
66 - 70 kg	53 psi
70 - 77 kg	55 psi
77 - 84 kg	62 psi
84 - 91 kg	69 psi
91 - 98 kg	76 psi
98 - 104 kg	83 psi
104 - 113 kg	90 psi

Fox 36 のサグに関する一覧		
トラベル量	Mtn X Race	Freeride Plush
110mm	17mm	28mm
150mm	23mm	38mm

兆候	対処法：
サグが大きすぎる状態	空気圧を 5 psi ずつ増やします。
走行中、底つきし過ぎる状態	空気圧を 5 psi ずつ増やします。
サグが小さすぎる状態	空気圧を 5 psi ずつ減らします。
乗り心地が悪く、最大トラベル量が使われていない	空気圧を 5 psi ずつ減らします。

TALAS のトラベル量調節

トラベル量は自転車に乗っていても乗っていなくても変更可能です。

トラベル量を下げるには

150 mm (最大に伸張させた状態) のトラベル量から、TALAS のノブ (前ページ写真 1) を右回りに回してトラベル量を短くします。1 回のクリックごとに 3 mm トラベル量が変わります。3.5 回転中に 15 ポジションの設定があります。ノブを必要な回数だけクリックした後、フォークを数秒圧縮してそのまま維持します。2、3 回フォークを回すと、下げたトラベル量にフォークが維持されます。

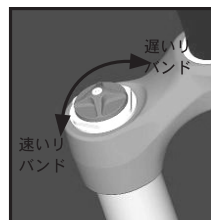
トラベル量を上げるには

下げたトラベル量から、TALAS のノブを左回りに回してトラベル量を上げます。ノブを必要な回数だけクリックした後、前輪を数秒上げフォークを伸張させます。

ダンピング調節ガイドライン

リバンド調節

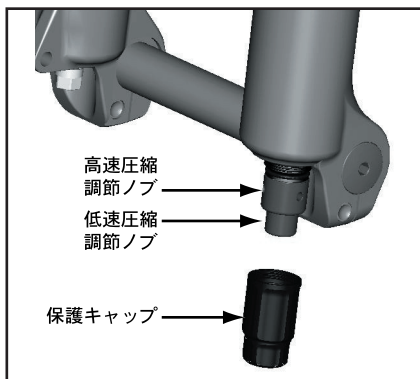
リバンドダンピングにより、車輪が圧縮ストロークから返るスピードがコントロールされます。適切なリバンド設定は個人の好みによって異なり、スプリングプレロード、スプリングレート、乗り手の乗車スタイルで変わってきます。リバンド調節は右側のフォークレグの上部にある赤いノブです。調節は各方向に止まるまで回転し、約 15 クリックの調節段階があります。工場からの出荷時にはフルポジションから 9 クリック左回りに事前設定されています。



Fox 36 リバンドチューニング		
調節器	遅すぎ (-)	速すぎ (+)
リバンド調節器	- トラクションとコントロールの喪失 - 不安定走行	- 車輪が地形をとらえない - 前面がバンブに集中する - 走行が荒くなる

高速圧縮調節

高速圧縮ダンピングは、トラベル量を通じてフォークを移動するのにかかる力と車輪がパンプにどう反応するかを、コントロールします。高速調節器は右フォークレグの下部にあり2つの青いノブの大きい方です。圧縮ノブを調節するには、保護キャップを回して取り外してください。この調節器は各方向に止まるまで回転し、15クリックの調節段階があります。工場からの出荷時には完全なアウトポジションから0クリックに事前設定されています。



RC2 圧縮チューニング			
調節器	パンプ タイプ	遅すぎ (-)	速すぎ (+)
低速圧縮調節器		- ブレーキダイブ過剰 - 不安定走行	緩んでいる状態で トラクションがない
高速圧縮調節器		- 尖った角のヒットで頻 - 繁にボトムする - Gアウトで激しく ボトムする	- トラクションが悪いと 走行が荒くなる - トラベル量の使用が少 なすぎる

高速圧縮調節器の特殊「ブースト」機能

この調節器には最大「ブースト」設定があり、調節器が完全に左回りに回転しているときに最大となります。この設定により、パンプの力の抵抗が調節器のリニア範囲を遙かに超え、フルフォームで止まるまで引き上げることができます。

注：高速圧縮ノブには3mmのヘキサキーやこのノブを回すのに役立つ類似のツールを挿入できる機能があります。絶対に「ブースト」ノブを締めない過ぎないようにしてください。

低速圧縮調節

低速圧縮ダンピングにより、乗り手の体重のシフトやブレーキをかけた場合の自転車の反応をコントロールできます。低速調節器は右フォークレグの下部にあり2つの青いノブの小さい方です。この調節器は各方向に止まるまで回転し、約17クリックの調節段階があります。工場からの出荷時には完全なアウトポジションから0クリックに事前設定されています。

油圧ボトムアウトシステム

Fox 36 R および RC2 には、特許申請中の内部調節可能な油圧ボトムアウト コントロールシステムが備わっています。この機能は Fox サービスセンターによってカートリッジ内で調節できます。工場からの出荷時には中位の設定に事前設定されています。

警告：適切なツールのある Fox Racing Shox の認定サービスセンターでない限り、Fox 36 R および RC2 の密閉カートリッジシステムを絶対に分解しようとししないでください。

各走行前点検

- 20 mm 軸ピンチボルトが215 N-cmのトルク値で適切に締められているかを、確認します。
- 石鹸と水でフォークの外側を洗浄し、柔らかな布で水分を拭き取ります。シール/アッパーチューブの接合部には直接、水を吹きかけないでください。フォークには高圧洗浄機を使用しないでください。
- 損傷がないかどうか、フォークの外側全体を検査します。外側に破損がある場合には、フォークを使用しないでください。外側の部品に破損がある場合には、フォークを使用しないでください。その他の検査、修理に関してはお近くのディーラーあるいはFox Racing Shoxまでご連絡ください。
- ヘッドセット調節をチェックしてください。もし緩んでいる場合には、メーカーの推奨するトルク値に従ってヘッドセットを調節します。
- ブレーキケーブルあるいはホースが正しく固定されているかどうかチェックします。
- 平らな場所で前輪と後輪のブレーキが正しく作動するかどうかチェックします。

メンテナンスの間隔

Fox 36 の性能、安全性、および持続期間はメンテナンスに左右されます。また、厳しい環境下で Fox 36 を使用する場合は、より頻繁なサービスやメンテナンスが必要となります。

注：このマニュアルでは、フォークの左側と右側という表現は自転車に乗車した乗り手から見た側を指しています。

Fox 36 の各部位は以下の定期的間隔でメンテナンスする必要があります。

作業項目	各走行毎	走行 25 時間毎	走行 100 時間毎	年に 1 度または 走行 200 時間毎	18ヶ月に 1 度か 走行 300 時間毎	本マニュアルにお ける記載ページ
表面の洗浄と乾燥	X					26
ダストワイパーの洗浄および フォームリングの検査と注油		X				27
構造上の点検			X			27
ブッシングの検査				X		28
オイル交換				X		28
TALAS のフロート液 とシールの変更					X	30

必要なツールと備品	トルク値の設定	用途
ゴーグル	不要	目の保護
バケツ / 受け皿	不要	オイル交換およびトラベル量の変更
パーバータオルおよび布切れ	不要	オイルや液の拭き取り
プラスチック面のあるハンマー/マレット	不要	ボトムシャフトを軽く叩く
トルクレンチ (インチ-ポンド / ニュートン-センチメートル)	不要	留め具を締める
Fox サスペンション液	不要	トラベル量の変更およびオイル交換 (すべてのフォーク)
32 mm 6 ポイントのソケット	1864 N-cm (165 in-lb)	トップキャップ用
10 mm のオープンエンドまたはソケットレンチ	565 N-cm (50 in-lb)	左側のボトムナット用
15 mm のオープンエンドまたはソケットレンチ	565 N-cm (50 in-lb)	右側のボトムナット用
5 mm のヘキサキーレンチまたはヘキサキーソケット	791 N-cm (70 in-lb) 215 N-cm (19 in-lb)	クラウンピンチボルト軸 および軸ピンチボルト
2 mm のヘキサキーレンチまたはヘキサキーソケット	124 N-cm (11 in-lb) 45 N-cm (4 in-lb)	リバンドノブ (R & RC2) 高低速圧縮ノブ (RC2 のみ)

シールおよびフォームリング

FOX FORX には、フォークがどんな状況下でもスムーズに作動するように設計されたシーリングシステムが備わっています。シーリングシステムはフォークシールとフォームリングの2つの部位から成ります。フォークシールは、当社が特許を有するスクレーパーリップジオメトリ機能を有し、それによってフォークから泥や埃などを排出し、フォークにオイルを保持できます。フォームリングはフォークリングの直下に位置します。ここはオイルで満たされ、アッパーチューブがこの近くを通過するたびにアッパーチューブにオイルを供給します。これによってフォークのスムーズな上下運動が可能になります。FOX FORX はメンテナンスを最小限に留めるように設計されていますが、フォークシーリングシステムの定期的な検査と手入れは必要です。アッパーチューブにオイルやグリースが少量付着していくのは、FOX FORX で正常なことで、フォークがスムーズに作動し、泥や埃などを外に出すのに必要な機能です。フォークシールは工場ではグリースを塗って出荷されています。ただし、このグリースは、ならし運転の期間にシールから流れ出ることがあります。

構造上の点検

アッパーチューブ

アッパーチューブの傷やへこみは、シールやブッシングが早期に摩耗する原因となるため、日ごろから気を付けて探しておきます。大きな傷やへこみは、本製品の整合性を損なう恐れがあります。お手持ちの Fox 36 にそのような破損がある場合は、Fox サービスセンターにご連絡ください。

クラウン

クラウンに破損や変形、亀裂がないかチェックします。そのような破損がある場合は、Fox サービスセンターにご連絡ください。

ローアーレック

ローアーレックのブレース部分、チューブセクション、ディスクブレーキ搭載部分、通過軸ドロップアウトの周辺に何も破損がないか点検します。ベンキの亀裂や剥離は、構造的な破損を示す兆候である場合があるのでチェックします。以下の方法でドロップアウトを点検します。

軸を配置し、ピンチボルトをトルクで適切な設定 (215 N-cm) に締めます。ドロップの下側に隙間があることが必要です。隙間がなく壁が接触している場合は、ピンチボルトが締め過ぎであることを示す兆候です。この部分の素材はピンチボルトの締め過ぎにより、圧縮されている場合があります。お手持ちの Fox 36 にそのような破損がある場合は、Fox サービスセンターにご連絡ください。

ブッシングのテクノロジーと点検

Fox FORX は流体潤滑を採用しています。当社のシステムでは、オイルは圧縮ストローク時に、スロットの付いた長いブッシングへ注入されます。フォークの上下移動によって、オイルはブッシング、アッパーチューブおよびシールの間に入り込みます。

温度が高いと、熱膨張作用によりブッシングはアッパーチューブを締め付け、通常の作動をしていても高摩擦および結合を引き起こします。従って、ブッシングに正しいクリアランス（すき間）を持たせることは、通常の作動時に生じるフォークの結合を防ぐ上で重要です。

製造工程で確実に各部品が機能し適合するように、幾何学的寸法測定および公差設定（GD&T）が設計段階で採用されています。ブッシングは装着前に採寸され、装着後にも再度、採寸されます。適切なブッシングの公差は、直径クリアランス 0.0375 ~ 0.225 mm です。

ショールームテスト

フロントブレーキをかけて停止している間、フォークを前後に揺ると、ブッシングにはブッシングとアッパーチューブを分離するための潤滑オイルがごくわずかだけ供給されます。この段階ではブッシングが少しだけ動くことに気付かれることでしょう。フォークブッシングには正しく機能するためにクリアランスが必要です。クリアランスが低すぎると、温度上昇したときに、高摩擦や結合またはブッシングの停止を招きます。

実地テスト

通常の走行条件下では、薄い油膜によってアッパーチューブからブッシングが完全に分離するとき、流体潤滑が起こっています。流体潤滑技術はブッシングに金属が接触しないので、摩擦を非常に低く抑えられ、ブッシングやシャフトへの磨耗も皆無です。流体潤滑時には、通常のブッシングのクリアランスは目立ちません。

ブッシングは年に一度、激しい磨耗をしているかどうか点検する必要があります。アッパーチューブとローアーレグに、全体にわたって激しい動きが見られた場合は、認定 Fox Racing Shox サービスセンターあるいは Fox Racing Shox に連絡してご相談ください。ドロップアウト（軸）でローアーレグを掴み、後輪の方へフォークをまっすぐ押します。その後、自分の方に引きつけます。次に、アッパーチューブとシールの接合部の近くのフォーク部位を掴み、同じことを繰り返します。過剰な動きが見られた場合は、このマニュアルの 16 ページを参照し、Fox Racing Shox または認定 Fox Racing Shox サービスセンターにご連絡ください。

オイルの交換

以下のツールと備品が必要です。32 mm の 6 ポイントソケット、10 mm のオープンエンドレンチまたはソケット、15 mm の深さの 6 ポイントソケット、トルクレンチ、2 mm のヘキサキーレンチ、プラスチックハンマー、小型ドライバー、オイル受け皿、清潔で乾いた糸くずの出ないタオル。

数量	部品番号	部品名
1	025-03-004-A	1 qt (946 ml) ボトルの Fox サスペンション液 (7 wt)
1	241-02-002-C	8 mm のクラッシュワッシャー
1	241-01-011	13 mm のクラッシュワッシャー

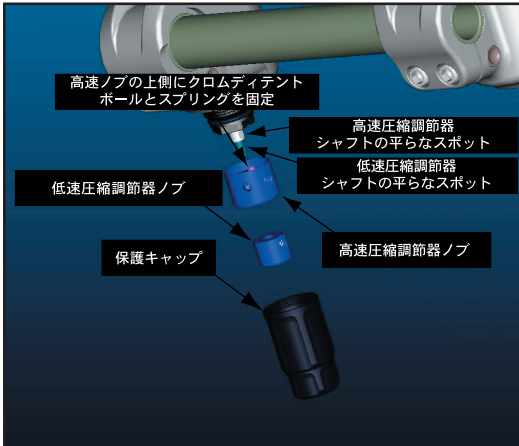
Fox 36 R や RC2 フォークのオイル交換は、各レグでローアーレグオイルバスを変更することです。このオイルバスのサービスは、上記の一般ツールで行うことができ、フォークを自転車から外す必要はありません。このサービスにはまた、密閉 R または RC2 カートリッジの分解は必要ありません。

警告：適切なツールのある Fox Racing Shox の認定サービスセンターでない限り、36 R および RC2 の密閉カートリッジシステムを絶対に分解しようとしないでください。

1. 自転車あるいはフォークをスタンドに置きます。ディスクブレーキキャリアをローアーレグから外してハンドルバーまたはフレームに固定します。5 mm のヘキサキーレンチを使用して、4 つの軸ピンチボルトを緩めます。5 mm のヘキサキーレンチを使用して、軸ファイブフルレポリューションを左に回してローアーレグから外します。前輪を自転車から外します。

2. フォークの左側下に清潔で乾いたオイル受け皿を置きます。10 mmのオープンエンドレンチまたはソケットを使用して、底部のナットを6回転完全に緩めます。プラスチック面のあるハンマーで底部のナットを軽く叩き、ローアーレグからプランジャーシャフトを取り外します。底部のナットと8 mmのクラッシュワッシャーを緩めて外します。ローアーレグを止まるまで下に引っ張ります。オイルをオイル受け皿に排出します。

3. (RC2のみ) Fox 36 RC2 フォークで黒い保護圧縮ノブキャップを緩めて外します。2 mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジを約2回転させて緩め、低速圧縮調節器ノブを外します。2 mmのヘキサキーレンチを使用して、設定ネジを約2回転させて緩め、高速圧縮調節器ノブを外します。直径約3 mmのクロームスチールディテントボールとディテントスプリングが、高速圧縮調節器ノブの機械穴にあることに注意します。



4. 15 mmの深さのソケットレンチを使用して、底部のナットを4回転緩めます。フォークの右下に清潔で乾いたオイル受け皿を置きます。底部のナットに（調節器を保護するため）15 mmの深さのソケットレンチを使用して、プラスチックハンマーで底部のナットを軽く叩き、ローアーレグからベーススタッドを外します。底部のナットと13 mmのクラッシュワッシャーをベーススタッドから外して脇に置いておきます。ベーススタッドを押し上げてフォークのオイルパスのオイルを受け皿に排出させます。

5. オイルが黒や暗い灰色に見える場合は、ローアーレグの両側をきれいなオイルでフラッシュするとよいでしょう。ローアーレグをフラッシュするには、フォークを逆さにして各レグに20cc程追加します。フォークが自転車から外れている場合は、フォークの内側にきれいなオイルがまんべんなくかかるように動かします。滴り終わるまでフォークを受け皿に排出させます。

6. 自転車またはフォークを逆さにして、ローアーレグを引き上げてローアーレグの右側底部の穴にFOX サスペンション液 (7 wt) を25 cc 注入します。ローアーレグを上向きにしたまま、左側底部の穴 (TALAS 側) にFOX サスペンション液 (7 wt) を15 cc 注入します。

7. 新しい右側13 mmのクラッシュワッシャーを古い底部のナットでつけられるまで、ローアーレグを下にスライドします。底部のナットを締めます（回すのは最高2～3回）。15 mmの深さの6ポイントソケットを使用してカートリッジの底部のナットを565 N-cmのトルク値に締めます。

8. ローアーレグをさらにスライドさせて下げ、フォークの左側のプランジャースタッドがローアーレグの穴に通るようにします。薄いドライバーを使用してプランジャーシャフトを移動させ、ローアーレグの穴に通るように位置を調節します。古い底部のナットで新しい左側の8 mmクラッシュワッシャーを取り付けます。底部のナットを締めます（回すのは最高2～3回）。10 mmのソケットを使用して、プランジャーの底部のナットを565 N-cmのトルク値まで締めます。

9. (RC 2 のみ) 自転車の右側を上に乗ります。右側ダンパーの底部にある 2 つの圧縮調節器シャフトに注目します。両方の平らなスポットが見つからない場合は、ニードルノーズプライヤーで軽くシャフトを傾けて調節器シャフトを回転します。(29 ページの図を参照してください)。2 mm のヘキサキーレンチを使用して、設定ネジがシャフトの平らなスポットで締まるように RC2 高速圧縮調節器ノブの位置を調節して取り付けます。ディテントスプリングとクロームスチールボールが機械穴の上側に来るように気を付けます。ノブが曲がる原因となるため、このノブを締め過ぎないように気を付けます。ここで、設定ネジがシャフトの平らなスポットで締まるように RC2 低速圧縮調節器ノブの位置を調節して取り付けます。圧縮ノブを両方 45 N-cm のトルク値に締めます。ノブを回して自由に回転することを確認し、RC2 保護キャップを取り付けます。

10. ローアーレグを布で拭きます。ディスクブレーキキャリアを再度取り付け、ネジをディスクブレーキメーカーのトルク指定値に合わせて締めます。5 mm のヘキサキーソケットとトルクレンチを使用して、前輪を再度取り付け、軸を通して 215 N-cm のトルク値に締めます。左側軸のピンチボルト 2 つを締め、215 N-cm のトルク値にします。フォークを数回圧縮して、フォークレグの右側を摩擦の低いポイントに安定させます。右側軸のピンチボルト 2 つを締め、215 N-cm のトルク値にします。これでオイル交換が完了です。走行に出かけましょう。

TALAS システムのメンテナンスガイドライン

TALAS フォークには、特許を有するシールが使われ、事実上メンテナンス無用を可能にしています。TALAS システムを 18ヶ月ごと、あるいは 300 乗車時間ごとに再構築することをお勧めします。TALAS フォークシールのキット部品番号は、803-00-212 です。

警告： TALAS システムのフロート液とシールの変更には、IFP ピストンに対応する特殊ツールが必要です。このメンテナンスは、認定された Fox Racing Shox サービスセンターが行うことを、強くお勧めします。サービスセンター一覧は、94 ページをご覧ください。

左側のフォークレグの下部にあるスロットは調整用ではありませんので、注意してください。これは TALAS ベーススタッドから下部のナットを緩めるときに使用します。

技術ヒント：当社サービスチームからのアドバイス：

自転車を逆さにして保管します。フォークが逆さになるので、オイルがフォームリングまでつたわってホームリングを潤滑し、次の乗車の準備ができます。

1. フォークシールの周縁には小さな切り目が複数あります。これらのスロットに小さく平らなブレードドライバーを入れて、フォークのローアーレグからシールをてこの原理で上げます。緩んだら、スロットをアッパーチューブのクラウンまで上げます。この際、ドライバーの先端は、フォークの塗料が損傷を受けないようにテープか他の材質でカバーすることをお勧めします。
2. アッパーチューブとローアーレグの接合部の回りを清潔な布で包みます。この作業はシールをきれいにする間、泥や埃から守るためです。
3. 布でシールの外径を拭きます。きれいになるまで、汚れを拭き取ります。
4. 布を取り除き、ローアーレグ内で見えるフォームリングをチェックします。リングはオイルで覆われ、泥や埃や破片が付いていないはずですが。フォームリングが乾燥している場合は、数 cc の Fox サスペンション液を使って潤滑します。
5. アッパーチューブを拭き、ローアーレグにシールを通します。慎重にシールを押しして元の場所に収めます。薄く平たいブレードドライバーを使って、アッパーチューブとフォークブレースの間に押し入れることもできます。この際、ドライバーのブレードはシールが損傷を受けないようにテープか布でカバーすることをお勧めします。シールがローアーレグの上部表面にしっかりと位置していることを確認します。
6. 余分なオイルを拭き取り、フォークを 2、3 回転させて、適切に作動するかどうかチェックします。

サービスおよび保証

Fox Racing Shox では、以下の手順をお取りになると、48 時間 * 以内に製品のサービス業務をご利用いただけます。

1. 米国内のお客様は、Fox Racing Shox（電話：800.369.7469）に電話して、Return Authorization (R.A.) Number（返品確認番号）および返送先の住所をお尋ねください。米国外のお客様は、該当する国際サービスセンターにご連絡ください。お近くのサービスセンターをお探しの場合は、このマニュアルの裏表紙に記載されたリスト、または www.foxracingshox.com をご参照になるか、Fox Racing Shox にご連絡ください。
2. 保証をお受けになる場合には、製品ご購入の際のレシートが必要です。
3. R.A.Number（返品確認番号）と返送先をパッケージの外側に明記し、製品を Fox Racing Shox あるいはお近くの国際サービスセンターにお送りください（なお、返送料金はお客様の負担となります）。
4. パッケージ内には、問題点、自転車に関する情報（製造メーカー、製造年月日、モデル）、Fox 製品のタイプ、スプリングレートおよびお客様の返送先の住所と昼間の連絡先電話番号を記載した紙を同封してください。

保証規約

お買い上げのフォークの工場保証期間は、自転車あるいはフォークをお買い上げになった日から 1 年間（EC 加盟国のお客様は 2 年間）とさせていただきます。保証サービスをお受けになる場合には、フォークをご購入時の元のレシートが必ず必要となります。保証に関しては、Fox Racing Shox がすべての決定権を有し、故障の原因となった材料および技術料のみを負担します。保証期間および規約については、州あるいは国で異なることがあります。

通常の使用により摩耗、亀裂を起こす部品、コンポーネント、アセンブリに関しては、本保証の対象外となります。

最終的な保証の決定権は、Fox Racing Shox が保持するものとします。

以下の事柄に起因するいかなる故障は一般的には保証の対象外となりますが、保障の対象外となる起因は以下に限定されるものではありません。

純正 Fox Racing Shox 部品と同等のクオリティを有しない部品またはアクセサリーの取り付け。

無理な引っ張り、放置、誤用、間違った使用。

事故または衝突による破損。

オリジナル部品の改造。

適切なメンテナンスの欠如。

出荷の際の破損または紛失（全額保険を購入することをおすすめします）。

間違ったケーブル設置、岩石、衝突、あるいは不適切な取り付けにより発生した外部または内部の破損。

Fox Racing Shox または認定サービスセンターで実施されていないオイル交換またはサービス。

本保証の対象外となる特定事項：

通常の使用による摩耗および損傷、または通常のメンテナンスによって交換された部品。

通常の使用による摩耗および損傷、または通常のメンテナンスにおいて対象となる以下の部品：

プッシング

シール

サスペンション液

ドロップアウト

ディスクブレーキタブ

Fox Racing Shox では、他のいかなる種類の明示的あるいは黙示的な保障も行いません。本保証に明記されている義務および期間を超えた特定用途に対する商品性および適合性のあらゆる黙示的な保障に関し、Fox Racing Shox は責任を放棄し、本保証より除外するものとします。

保証に関する Q & A

Q. 保証期間においてユーザーが負担する費用にはどんなものがありますか？

A. ユーザーが負担される費用は、メンテナンスサービス、保証対象外の修理、事故および衝突による破損、オイル、シール、ブッシング、リデューサー、および部品の取り付けに関するものです。

Q. “無理な” 引っ張り、怠慢、誤用とは、具体的にどんなことですか？

A. これらの表現は一般的な意味を指し、互いに重なり合う部分があります。特定するならば、ハッキング、無人走行、高い場所からの落下、スタント走行、危険な走行、部品が破損した状態での走行、フォーク内にオイルのない状態での走行、不適切なスプリングレートなどの行為が挙げられます。

Q. 配送あるいは輸送の際の事故のコストはカバーされますか？

A. カバーされていません。本保証は材料または技術料に限定されます。

Q. オナズ・マニュアルに記載されている推奨するメンテナンスをすべて行うことはできますか？

A. シールとサスペンション液のメンテナンス、およびブッシングとドロップアウトの検査はできます。ブッシングやドロップアウトが磨耗している場合は、Fox Racing Shox または認定サービスセンターで交換してもらう必要があります。

Q. フォークの手入れや修理を自分で行えますか？

A. Fox FORX は、エンドユーザーによってほとんどの手入れが可能です。オイル変更、トラベル量の変更、ダンパー交換、およびスプリング交換はお客様が行えます。性能を最大限に引き出すため、広範囲に渡るフォークの修理や手入れは、資格を有する自転車サスペンションの整備工、Fox Racing Shox あるいは認定サービスセンターに委託してください。お客様がご自身でフォークを修理できるかどうか疑問を持たれた場合は、Fox Racing Shox または認定サービスセンターにご連絡ください。

免責事項

Fox Racing Shox は、お客様のフォークや自転車の走行、移送、その他の使用によってお客様あるいは他者に発生した損傷について責任を負いません。お客様のフォークが故障しているか正常に作動しない場合でも、Fox Racing Shox は、本マニュアルの保障事項の記載に従ってフォークの修理または交換を行う以外の責任や義務は負いません。

連絡先

Fox Racing Shox
130 Hangar Way
Watsonville, CA 95076
電話：831.274.6500
北米：800.FOX.SHOX (369.7469)
ファックス：831.768.9312

E メール：service@foxracingshox.com
ウェブサイト：www.foxracingshox.com
営業時間：月曜日～金曜日、午前 8 時～午後 5 時（米国太平洋時間）

お支払い方法

Visa、MasterCard、または為替

出荷方法

FOX Racing Shox は米国内の出荷に際しては、UPS 地上発送サービスを利用しています。

チューニング時の注意事項：

本書に記載の情報はガイドとして提供されているものです。FOX Racing Shox では事前の予告なく内容を変更することがあります。